

これからの季節に使える皮フの病気の漢方薬



外気温が25℃を超える日も出てきました。

紫外線も強くなってきましたので、
皮フにかかるストレスは増えてきます。

十分なスキンケアで対処できることはそれでOKです。

これからの季節に多い皮フに使える漢方薬を御紹介します。



1 顔のほてり

(34) 白虎加人参湯(びゃっこかにんじんとう)

暑い環境下(グラウンド、プール、体育館、ビニールハウスなど)で、
運動や作業した後に、顔のほてり、のぼせ、ノドの渇きがあれば
使います。
冷たい水で飲みましょう。



2 蚊にさされた

(28) 越婢加朮湯(えっぴかじゆつとう)

蚊にさされて、赤く大きく腫れる体質の人がいます。
ひっかかないようにして冷やして、この漢方薬1回飲みます。
外用薬は併用可です。



3 とびひ (伝染性膿痂疹)

(6) 十味敗毒湯(じゅうみはいどくとう)

虫さされ、擦り傷、アトピー性皮フ炎、乾燥肌など、ベースは何でも
よいですが皮フをガリガリ引っ掻いてしまうと、静かにしていた皮フの
常在菌が膿(のう=うみ)を作ります。
膿がまたかゆいので、さらに引っ掻いて炎症が拡大していきます。
抗生剤の外用、内服+十味敗毒湯はよく使う手段です。



4 水イボ (伝染性軟属腫)

コタロー ヨクイニン

水イボウイルスによる皮フの病気です。
小さなブツンとした水疱の中に、ウイルスがきっちり入っています。
これを破ると周囲にウイルスが飛び散って水疱が増えていきます。
ヨクイニンを飲むことによって、飲んでいる人の体の中に水イボウイルスに対する
抗体を産生させる反応を引き出します。



5 膿瘍

(122) 排膿散及湯(はいのうさんきゆうとう)

小さな膿瘍(おできなど化膿したもの)から大きな膿瘍まであります。
小さなものは消失していき、大きなものは噴出して膿が飛び出てきて
治ります。
抗生剤の併用は可能です。



1つの漢方薬を使いこなす【五苓散】

体の部分的な水分バランスの悪さを調節します。
例えば、熱中症のときはカラダ全体としては「脱水状態」ですが、頭の中は
「脳浮腫」状態で水がジャバジャバと入り込んだまま脳がむくんでいます。
そのため頭が重く、痛くなります。
水分を少量ずつ摂りながら五苓散を飲みます
(こういうときは冷たい水で飲みましょう)。
そうすると脳浮腫の水分がどンドン脳から外へ出ていきます。
体にとって必要な水は保持します。
脳浮腫が改善されれば、頭重・頭痛も治ります。



実際に使える場面

- 急性胃腸炎、吐き気、嘔吐、下痢、口の渇きがあればよく効きます
- 熱中症 ● 二日酔い ● 乗り物酔い ● 低気圧時の頭痛 ● 帯状疱疹の初期
- 「今日水分摂りすぎたー、明日の朝顔がむくむのはイヤー」と思った人は、
五苓散を飲んで寝ましょう。翌朝むくまずに済みます。

お知らせ

岐阜市の漢方外来予定日 6月16日(土)、30日(土)

14:00-17:30 場所: 中島小児科(岐阜市鍵屋東町2-1)
※すべて「院外処方」となります。

小児夜間急病センター当番日 6月15日(金)

19:30-22:30(受付) 場所: 岐阜市民病院にて

休診のお知らせ

6月6日(水)、6月9日(土) 都合により休診します。

6月21日(木) 午前のみ、午後の漢方外来は14:00から行います。